

(事後評価)

元気な食と農を支える女性研究者支援モデル

(実施期間：平成 21～23 年度)

実施機関：独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構（総括責任者：堀江 武）

プロジェクトの概要

【女性研究者のための具体的な取組】

「女性研究者支援室」を設置し、組織全体の合意の元に女性研究者への支援策を実施する。支援策としては、【業務改革】、【教育・支援】、【情報システム整備】、【次世代研究者の支援】の4点を進める。【業務改革】として、①内部研究所に保育室を整備、一時保育の支援体制の整備、相談窓口およびメンター制度の整備、研究費の配分、②女性研究者のロードマップ作成のため、人事異動調整相談窓口の設置、セミナーや個別相談によるキャリアガイダンス制度の構築、メンター制度の設置、を推進する。【教育・支援】については、女性研究者の研修受講機会の確保、女性研究者の支援者を対象とした教育・研修、休業時期の女性研究者に対する研究復帰支援に取り組む。【情報システム整備】では、テレビ会議システムの高度化等により育児・介護に携わる女性研究者のためのITシステムの改善を行う。【次世代研究者の支援】では、採用審査時の業績数について育児期間中のハンディを考慮、女性研究者の応募を増やすための広報活動、育児休業中の代替職員として女性を優先採用、若手研究者交流システムの構築を推進する。

【期待される効果】

女性研究者の増加と幹部職員への登用拡大が見込まれる。女性研究者の環境改善により、長期にわたる活躍が実現する。研究者を目指す女子学生の意識啓発になるほか、男女共同参画に対する男女の意識が向上する。農学系の分野に女性研究者が増えることにより、新たな視点が導入され、我が国の農業と食品産業における更なるイノベーションが期待される。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組の内容	システム改革の成果	実施体制	実施機関終了後における取組の継続性・発展性
A	s	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

（2） 評価コメント

つくば地区に理事長直轄の男女共同参画本部、女性研究者支援室を設置し、14 の内部研究所に支援窓口を設置することにより、全国に点在する 41 拠点を網羅する女性研究者のためのネットワーク及び支援体制を確立したことが評価できる。女性研究者採用比率や中堅・幹部職員の増加に取組の大きな成果が見られる。

- ・**目標達成度**：全国の研究拠点を繋ぐ女性研究者支援体制を整備し、女性研究者採用割合、中堅・幹部職員数ともに目標を大きく上回る達成状況となっており高く評価できる。
- ・**取組の内容**：研究支援員の配置等、女性研究者のライフイベントに係わる支援を全国の拠点で展開し、さらに、女性研究者の採用及び登用の推進、メンター制度の導入等、意欲的な取組を実施しており評価できる。
- ・**システム改革の成果**：全国の拠点を広域に繋ぐシステム改革を行い、意識啓発、キャリア支援、両立支援、情報システム整備を機関全体として実施することにより、出産・子育て世代の女性研究者のキャリア継続、分散し孤立しがちな女性研究者のメンタルサポートができた点が評価できる。
- ・**実施体制**：機関本部に理事長直轄の男女共同参画本部、女性研究者支援室を設置し、全国 14 の内部研究所との連携を密にしたことにより、全国に研究拠点が点在する機関特有の諸問題に対応し得る実施体制を構築したことが評価できる。
- ・**実施期間終了後における取組の継続性・発展性**：女性研究者支援室を男女共同参画推進室へ展開し、取組を今後継続して実施し得る体制を構築した点が評価できる。さらに、研究支援員制度を中心に実施期間中の補助金に相当する予算措置を行っており、今後の発展が期待できる。